



# GAF・MSのご説明

国立精神・神経医療研究センター  
精神保健研究所 社会復帰研究部

水野雅之

# GAFやMSを使う目的

- GAFやMSを使うことで、  
利用者の方の状態像を示すことができる

= 医療関係者や政策を策定する関係者にも  
研究の結果を誤解なく伝えることが可能

※回避したい誤解の例：

利用者が症状が軽い人ばかりだから地域の事業所や  
ピアスタッフの支援が有効だったのでは？

# GAF・MSとは

- GAFとMSはスタッフの方から見た、利用者の状態について調べるもの
- **面接**（普段の関わりでも可）と**観察**で得点をつける

GAF：最近1ヶ月の様子

MS：最近1週間の様子

- GAFとMSを使うにはコツが必要

# GAFとは

- 利用者の、一ヶ月間で一番状態が悪いときについて、  
症状と社会的機能をもとに評価
- 100（精神的健康）～1（疾患）の連続体の中で  
あてはまる点数を考える 例. 45, 68, 72

# GAFの得点を決める手順

## 得点を決める手順

### ステップ1

上（100～91）から開始して，下に向かって読み進め  
**どの範囲に含まれるか**を決める

### ステップ2

範囲が決まったら，その範囲や上下の範囲を参考に  
**具体的な得点を決定**する

# 注意点

- **症状**と**社会的機能**で大きな違いがあるとき  
→悪い方で得点をつける

例1 軽い気分の落ち込み (61~70点)

親しい対人関係がない (41~50点)

例2 自殺念慮がある (41~50点)

学校には問題なく通えている (71~80点)

※厳密に決めようと考えると決められなくなるので  
ある程度は思い切りが必要

# GAFの練習 1～3

- 場面1：育子さんとお父さんのやりとり  
【5分59秒～9分55秒】
- 場面2：育子さんとスタッフ1とACT-K事務所,  
スタッフ2と公園 【36分21秒～38分57秒】
- 場面3：育子さんとスタッフ1とぜんざいのお店  
【41分18秒～42分51秒】

# MSとは

- **面接**と**観察**から，最近1週間の症状を評定 8項目

質問と観察	観察
1. 抑うつ	5. 感情の平板化 不適切な感情
2. 不安	6. 精神運動減退
3. 妄想	7. 滅裂思考
4. 幻覚	8. 寡黙・無言



# 1. 抑うつ（質問と観察）

- 最近1週間に関する質問：「憂うつなことはありませんか？」  
「それはひどかったですか？」 「しばしばありましたか？」

0	1	2	3	4
面接時正常な態度と行動。抑うつ的な症状はきき出せない。	抑うつ症状(時折ふさぎ込む, 気力不足など)が少しあるが, 病的とはみなせない。または, 臨床的意義を持つには至らない。普段の性格特徴とみなせる。	臨床的に抑うつと考えられるが, 軽度である。最近1週間にはかなりの苦痛を引き起こすか, あるいは日常の自分とはかなり違ったとみなされる抑うつ気分が時々あった。	臨床的に重度の抑うつと考えられる。または, 2)で述べた抑うつ気分が, 最近1週間にしばしばあったか, または抑うつによるはなはだしい苦痛が時々あった。	臨床的に極度の抑うつと考えられる。重い抑うつ症状(例えば, 強い自殺念慮, 泣くことを自分で止められないなど)が存在するか, または, 最近1週間に抑うつによるはなはだしい苦痛がしばしばあった。

## 2. 不安（質問と観察）

- 最近1週間に関する質問：「不安なことはありませんか？」，「それはひどいですか？」，「しばしばありましたか？」

0	1	2	3	4
面接時正常な気分。	患者の現す緊張が、病的とはいえない普段の性格特徴か、または面接状況に対するもっともな反応であると考えられる。	臨床的意義のある軽度の不安、あるいは緊張を現していると考えられる。または、最近1週間にかなりの苦痛をもたらす不安が時々あった。	臨床的意義のある重度の不安、あるいは緊張を現していると考えられる。患者は面接に対しても不安を感じ、安心感を与えてもらいたいと思うが、不安によって面接が中断されることはあまりない。不安に伴って焦燥が存在することもある。または、最近1週間にしばしばかなりの苦痛を引き起こす不安があったか、時々のはなはだしい苦痛を引き起こす不安があった。	臨床的意義のある極度の不安、あるいは緊張を現していると考えられる。患者は寛ぐことができず、不安によって面接がたびたび中断される。または、不安に伴って高度の焦燥が存在したり、恐怖のあまり差し迫った問題に気を取られたりする。または、最近1週間に不安によってはなはだしい苦痛がしばしば引き起こされた。

### 3. 妄想（質問と観察）

- **妄想**…自己に関連した誤った確信
- **優格観念**…強い感情が伴う考えで、長時間頭から離れないもの  
例：妻が他人と不倫している、自分はすごいものを発明した
- **関係念慮**…本来関係のない出来事が自分と関連しているように感じる  
こと 例：笑い声が自分を笑っているように感じる
- 最近1週間に関する質問：「他の人とうまくつきあえますか？」, 「誰かがあなたに敵対しているようですか？」, 「考えを邪魔されますか？」, 「テレビや新聞であなたのことを言っていないですか？」

0	1	2	3	4
面接時異常が認められない。	風変わりな信念や些細な曲解(例えば,悪い天気は核実験のせいである), 迷信, 宗教的な信念など。	優格観念, 関係念慮, 明らかな曲解, 独特な意味づけ。	最近1カ月に明らかな妄想や妄想知覚があったと述べるが, 現在も持っていることは否定する。または, 妄想を語るが, 固定しておらず訂正可能である。	明らかな妄想が存在し, 現在も持ち続けている。

# 4. 幻覚（質問と観察）

- **幻覚**…対象がない知覚（幻視，幻聴など）
- **真正幻覚**…知覚（見る，聞く）が明らかで，外側に感じる  
例：目の前にきらきら光るものが見える  
後ろから自分の悪口が聞こえる
- **偽幻覚**…画像か音声かわからず，内側に感じる（≒イメージ）  
例：神様と対話している自分の姿が頭に浮かぶ  
自分の考えが声になって頭に響いている
- 最近1週間に関する質問：「誰もいないのに声が聞こえませんでしたか？」，「実際にはないものが見えませんでしたか？」

0	1	2	3	4
幻覚の症状はない。	幻覚体験は明確には病的といえない。入眠時幻覚，直観像，錯覚など。	聴覚，視覚における偽幻覚，内省に結びついた幻覚(例えば，死別に引き続くものなど)	最近1週間に真正幻覚があったが稀にしか起こらない。	最近1週間に真正幻覚がしばしばあった。

## 5. 感情の平板化・不適切な感情（観察）

0	1	2	3	4
面接時正常な反応を示す。	感情表出を伴ってしかるべき話題を話している時もぶっきらぼうで寡黙、反応に乏しい。しかし、病気の徴候というよりむしろ普段の性格特徴とみなされる。	臨床的意義のある軽度の感情反応の障害。重要な課題について話している時に、感情の抑揚を明らかに欠くか、または面接中時々であるが明らかに不自然な感情反応を示す。	臨床的意義のある重度の感情反応の障害。温かみ、あるいは思いやりが感じられない。病歴を述べても出来事の衝撃をうまく伝えることができず、将来への関心がない。または、しばしば軽度の不適切な反応が、もしくは時々高度の不適切な反応がみられる。	臨床的意義のある極度の感情反応の障害。どんな時も感情の反応はみられない。または、間が抜けていたり、尊大だったり、くすくす笑ったりなどといった高度の不適切な反応がしばしばあり、面接が妨げられる。

## 6. 精神運動減退（観察）

- **精神運動減退**…精神障害によって動作・反応が鈍くなること

0	1	2	3	4
面接時正常な態度と言語。質問に対してかなりすばやく答える。自発的な態度と表情の変化がみられる。	動作の緩慢さ、自発性の乏しさがみられるが、普段の性格特徴か、病的な段階には達していない。	面接時動作の緩慢さや自発性の乏しさが臨床的に認められ、それは精神障害によるものである。質問に対する答えの遅れが、普段の性格特徴ではなく、病的な精神状態の一部と考えられる場合2と評価する。	面接時に精神障害による精神運動減退が容易に認められ、それが現在の異常な精神状態に大きく影響していると考えられる。	極度の精神運動減退がみられる。

# 7. 滅裂思考（観察）

- **滅裂思考** ≡ 思考障害

…思考の流れにまとまりがなく，話題が突然飛躍したり，無関係の事柄どうしが結びついている。

0	1	2	3	4
思考障害の症状がない。	時に奇妙な応答をするが，思考障害の基準を満たすほどではない。観念間の関連を理解することは常に可能である。	時々思考障害の症状がみられるが，それ以外はまとまりがある。	しばしば思考障害の症状がみられるが，患者との意味のある会話は可能である。または時々言語が滅裂となる。	意味連合の方向を欠くために応答が理解できない。言語内容はしばしば滅裂となり，意味の脈絡が理解不能である。

## 8. 寡言・無言（観察）

0	1	2	3	4
言語は量的にも形式的にも正常。	話しかけられた時のみ話し、応答は短い。	時々口ごもったり、沈黙したりするが、面接はほぼ円滑に進む。または患者がぼんやりしたり、ためらったり、応答が短かったりするため会話妨げられる。	単音節の応答。長い沈黙、あるいは全く応答しない。または言語量はかなりあるが、応答に時間がかかったり、ためらったり、内容を欠き、とりとめがないため、意味のある会話がほとんどできない。	面接中無言である。または二言三言だけ話す。あるいは絶えず小声でつぶやいている。



# MSの練習 1

- 育子さんの3つの場面を再度見て,  
5～8の得点をつけましょう  
(1～4は面接をしないとつけることができない)

# MSの練習 2

- 研究員のロールプレイ 1

- 研究員のロールプレイ 2

# GAFの解説 1

- 配点の例：研究員A: 21点、研究員B:25点
- 行動は妄想や幻覚に相当影響されている。意思伝達に欠陥（滅裂, 不適切なふるまい）。
- 暴力的な衝動あり。しかし制止はきく。ほとんどすべての面で機能することができない。

# GAFの解説2

- 配点の例：研究員A:35点、研究員B:33点
- 現実検討および意思伝達にいくらかの障害がある。スタッフの言っていることへの理解が、全くないわけではないが不十分
- 判断・思考・気分など多くの面で重大な障害
  - \* 不適切なふるまい（柵を乗り越える・奇声を発するなど）がみられた。

# GAFの解説3

- 配点の例：研究員A: 40点、研究員B:40点
- 現実検討および意思伝達にいくらかの障害がある。  
（「お金はらっておいてあげるから。あとで返してもらおうから」への反応として）
- ただし、場面2よりは意思疎通ができています。

# MSの解説 1

ポイント：一番調子の悪いところをもとにする

5 感情の平板化・不適切な感情

**重度 3** （散歩中の喜び方など）

6 精神運動減退

**軽度 1** （病的ではないが緩慢な様子が窺える）

7 減裂思考

**重度 3** （会話は可能であるが思考障害がみられる）

8 寡言・無言

**なし 0** （見られない）

# MSの解説2

- 抑うつ気分と不安がたまにあった  
→抑うつ2点 不安2点
- 親に対する強固な不信感（優格信念）があった  
→妄想2点
- 真正幻覚が稀にあった→幻覚3点
- 温かみ，思いやりが感じられない  
→感情の平板化3点
- 緩慢さが容易に認められる→精神運動減退3点
- 奇妙な応答はあるが，思考障害とはいえない  
→思考障害1点
- 時々，口ごもったりするが面接は円滑に進む  
→寡黙・無言2点

# MSの解説3

- 抑うつ気分と不安がよくあった  
→抑うつ3点 不安3点
- 妄想, 幻覚はない→妄想0点 幻覚0点
- 感情の抑揚を欠く→感情の平板化2点
- 質問への返答は遅れるが, その他はない  
→精神運動減退2点
- 思考障害はない→思考障害0点
- 話しかけられたときのみ応答  
→寡黙・無言1点